

Life & Work
わたしの
天職

庭造りを
人を笑顔にする

生熊初江さん(75)
静岡県・浜北教会



身長一四二センチの小さな体で、刈込みばさみを手に、十一段の脚立をひよいひよいと上っていく。生熊初江さんは、七十五歳にして現役の庭師。三メートルを超える高さで枝葉をシャキシヤキと剪定する。年齢を感じさせない軽やかな身のこなしだ。

中学三年生の年、家業の造園業が、賠償や詐欺などで風前の灯に。精神的な打撃を受けて床に臥す父親(宏至・享年55)に代わり、三姉妹の長女である生熊さんは、セーラー服姿で銀行に融資を頼み、高利貸しに借金の減免を交渉する。何とも肝の据わった十五歳だった。中学卒業と同時に家業を継ぎ、回復した父に植木の手入れや造園技術を学ぶ。結婚後は婿入りした夫(謙策・享年77)と仕事に励んだ。

「女だてらに」「小さな体で」と同業者から白い目で見られもした。車高の高い工事用車両に乗ると、外から姿が見えなくて「無人車だ!」と驚かれたことも。「それでも、手入れた庭を見て施主さんが笑顔になると、疲れも吹き飛びましたよ」と、当時の苦勞を闊達に笑い飛ばす。

立正佼成会の熱心な信者の継母(伸江・97)の願いもあり、二十八歳から四十年間は浜北教会でお役に専念し、相手の思いに寄り添う大切さを教わる。六十八歳で役を退き、親方を継いだ長男(孝至・53)のもと仕事に復帰。学んだことは体が覚えていた。「右、右、ストップ! 少し上げて!」。親方の数センチ単位の細かい指示で、生熊さんがクレーンを操る。叱られることもあるが、「一人前として扱ってくれている証拠。こうして元気に働けているだけで感謝です」と朗らかに笑った。



水石造園
〒434-0041
静岡県浜松市浜名区平口1382
電話 053-587-0524